

## 新しい冠動脈カテーテル治療のご案内



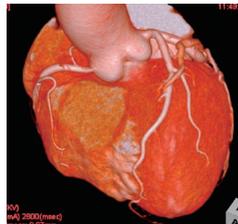
心臓病センター循環器内科 吉川 俊治

2017年4月より心臓病センター循環器内科に着任した吉川俊治と申します。今回はこの場をお借りして冠動脈カテーテル治療の説明をします。

心臓は24時間拍動して全身に血液を循環させる生命の根幹となる臓器で、筋肉への血液は心臓表面にある「冠動脈」から供給されます。冠動脈が動脈硬化を生じて細くなり血流が低下した状態が狭心症で、血管が詰まって心筋が壊死した状態が心筋梗塞です。

「胸部を圧迫されるような痛み」を自覚することが多いですが、息切れや動悸、背中痛みといった症状で発見されることもあります。重症例では致命的な経過になるととても怖い病気です。

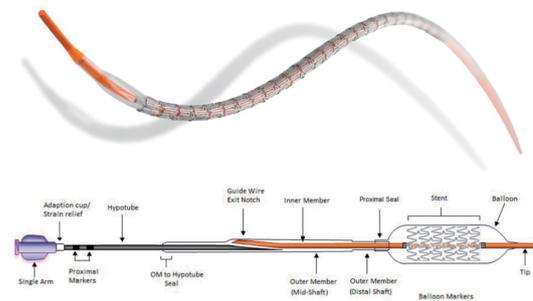
冠動脈の病気を発見することはとても簡単になりました。最近ではヨード造影剤を静脈注射しながら心臓をCTスキャンで撮影することで90%以上の感度で異常を見つけることができます(図1)。



冠動脈の病気が発見された時はカテーテルを使用した血管造影検査を受けてください。カテーテルとは検査と治療で使用する直径2-3mm程度の細い管で、手首か足の付け根の動脈から血管内に挿入し冠動脈入り口まで近づけヨード造影剤で血管撮影をします。当院では結果を参照してカテーテルを使った血管内治療かバイパス手術による外科治療を行うかを診療ガイドラインに沿って合理的に判断しています。

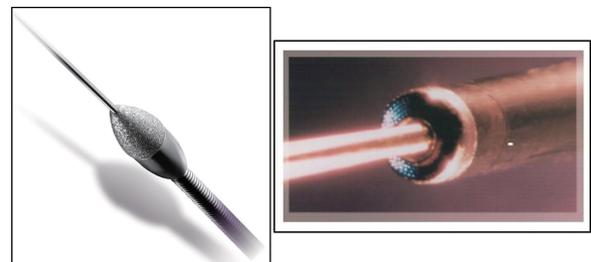
カテーテル治療では細くなった血管を「ステント」という金属コイルで拡張します。最新の薬剤溶出性ステントは5年以上の長期成績で心

事故がとて少なく全世界的に普及しています(図2)。



当院では90%以上の症例でカテーテル治療を手首の動脈から実施しています。治療は3日間の短期入院で可能で、2018年は281件の治療を経験しました。

外科手術数とカテーテル治療数が規定数に到達したため、当院でも特殊カテーテルによる冠動脈治療が可能になりました。石灰化して硬くなった冠動脈にはロータブレード(ダイヤモンドのドリル)を活用し、血栓性病変やステント内狭窄に対してはエキシマレーザーを使います(図3)。



心臓病センターでは安全で確実なカテーテル治療を心がけています。胸の痛みのある方はいつでも病院1階の総合医療相談室で受診のご相談をいただければ幸いです。